

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
東京YMCA社会体育・保育専門学校	昭和55年4月1日	堀 雄二	〒135-0016 東京都江東区東陽2-2-15 (電話) 03-3615-5577																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
公益財団法人東京YMCA	明治36年9月29日	菅谷 淳	〒135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 (電話) 03-3615-5565																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
教育・社会福祉	保育専門課程	保育科	平成22年11月29日 文部科学省告示第84号																								
学科の目的	本校保育科は、保育士資格を取得し、子どもに対する理解を深めると共に、保育園や児童館などの保育・社会福祉施設で働くために必要な援助技術を習得し、保育士としての資質・能力・技術を身に付けることを目的とします。																										
認定年月日	平成28年2月19日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
	2年 昼間	1,905時間	660時間	1620時間	660時間	0時間	30時間																				
生徒総定員	生徒定員		留学生数(生徒定員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
	100人		48人	0人	8人	23人	30人																				
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法について S(優)、A(良)、B(可)、C(可)、D(不可)・出席率、授業態度、試験結果で判定																						
長期休み	■学年始め:4月9日 ■夏季:7月30日～9月9日 ■冬季:12月20日～1月6日 ■学年末:1月31日 ■春季:2月1日～4月7日			卒業・進級条件	卒業に必要な1,905時間を終了すること																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任が面接、教務主任、学科長が連携して対応			課外活動	■課外活動の種類 野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、テニス等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報)																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 保育園、幼稚園、こども園、児童館、学童クラブなど			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>22人</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>幼稚園教諭二種免許状</td> <td>①</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	保育士	①	22人	22人	幼稚園教諭二種免許状	①	15人	15人								
	資格・検定名	種	受験者数		合格者数																						
保育士	①	22人	22人																								
幼稚園教諭二種免許状	①	15人	15人																								
■就職指導内容 キャリアガイダンス、就職講座等			<p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p>																								
■卒業生数: 22人			■卒業者に占める就職者の割合: 100%			■その他・進学者数: 0人																					
(平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)			■自由記述欄																								
中途退学の現状	■中途退学者: 2名		■中退率: 4%		平成30年4月1日時点において、在学者49名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者47名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的問題・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任が面接、教務主任、学科長が連携して対応																						
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度・学習奨励金制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://sports.ymsch.jp/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

- (1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
- ②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
- ③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

- (2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
- ①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- ②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
- (3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係																											
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 本校保育科は、保育士の資格を取得し、子どもに対する理解を深めると共に、保育園や児童館などの保育・社会福祉施設で働くために必要な知識と技術を習得する。教育課程は、保育士としての資質・能力・技術を身に付けることを目標に編成される。その際、保育業界の有識者から意見を伺い、また現場で働いている保育士等を講師として招聘することを積極的に行う。																											
(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記 本校保育科の教育課程編成委員会は、保育・幼児教育の学識経験者または保育園等の園長、保育科学科長を中心に組織され、保育士としての必要な専門知識と技術、業界で求められる人材等について情報と意見を交換する。学科長は、そこで話された内容を保育科学科ミーティングにて検討をする。その後、該当教科教員に依頼をし、学科ミーティングの承認を経て、最終的に校長が決定する。																											
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿 令和元年9月1日現在																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴木信行</td> <td>山梨県私立幼稚園連合会会長</td> <td>平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>興津夏子</td> <td>港区立芝浦アイランドこども園園長</td> <td>平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>堀 雄二</td> <td>東京YMCA 社会体育・保育専門学校校長</td> <td>平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>佐治 克彦</td> <td>東京YMCA 社会体育・保育専門学校副校長</td> <td>平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>齊藤希世</td> <td>東京YMCA 社会体育・保育専門学校学科長</td> <td>平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名前	所属	任期	種別	鈴木信行	山梨県私立幼稚園連合会会長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	①	興津夏子	港区立芝浦アイランドこども園園長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	③	堀 雄二	東京YMCA 社会体育・保育専門学校校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)		佐治 克彦	東京YMCA 社会体育・保育専門学校副校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)		齊藤希世	東京YMCA 社会体育・保育専門学校学科長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	
名前	所属	任期	種別																								
鈴木信行	山梨県私立幼稚園連合会会長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	①																								
興津夏子	港区立芝浦アイランドこども園園長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	③																								
堀 雄二	東京YMCA 社会体育・保育専門学校校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)																									
佐治 克彦	東京YMCA 社会体育・保育専門学校副校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)																									
齊藤希世	東京YMCA 社会体育・保育専門学校学科長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)																									
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>																											
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期)																											
年2回(9月、12月)																											
(開催日時)																											
第1回 平成30年9月28日 18:00～20:00																											
第2回 平成30年12月14日 18:00～20:00																											
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 教育課程への提言では、保育士としての使命、役割理解の必要性が挙げられた。対応策として、保育園園長の講演や実習以外の現場研修での先輩保育士からの学びの機会を多く取り入れるよう見直しを行った。また、コミュニケーション不足や遊びの経験不足等の現場での課題も挙げられ、独自科目であるキャンプ実習の中での体験プログラムを通して、不足部分の体験教育を行った。																											
2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係																											
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 本校では、社会に貢献できる保育者養成を目指し、学校での講義や演習においては、現場で活躍している園長や主任等を招き講義を実施している。実習においては、保育園、幼稚園、児童館、福祉施設などの協力のもとで成果をあげている。また実習前の学びとして、YMCA運営施設への見学などを行っている。																											
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 保育科の授業においては、特に現場での対応力の向上のために、現場で活躍している園長、主任などの協力を仰いでいる。講師として派遣してもらい、授業、学生指導、学習成果の評価をお願いしている。実習においては、連携する現場施設との連携を密にし、教育現場としての場を提供してもらっている。																											
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育原理</td> <td>保育の意義や基本、保育の目標と内容・方法、保育の課程と保育の質の向上を学ぶ。</td> <td>YMCAオーリーブ保育園</td> </tr> <tr> <td>障害児保育</td> <td>障害児保育を支える理念を踏まえ、様々な障害のある子どもの特性や心身の発達に応じた援助・配慮を学ぶ。</td> <td>障害者支援施設 アガベの里</td> </tr> <tr> <td>乳幼児保育実践</td> <td>保育園・こども園・学童等の現場で、多くの子どもと出会う中で保育士としての実践力を高める。</td> <td>まつぼっくり子ども教室</td> </tr> <tr> <td>家庭支援論</td> <td>子どもの健やかな育ちを支えるために、家庭支援が必要とされている背景を知り、保育者に求められる基本的姿勢を学ぶ。</td> <td>芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ</td> </tr> <tr> <td>保育実践演習</td> <td>授業・研修・実習を通して、それらを総合的に捉え、自らの保育者像を研究し、研究論文としてまとめる</td> <td>しののめYMCAこども園</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	保育原理	保育の意義や基本、保育の目標と内容・方法、保育の課程と保育の質の向上を学ぶ。	YMCAオーリーブ保育園	障害児保育	障害児保育を支える理念を踏まえ、様々な障害のある子どもの特性や心身の発達に応じた援助・配慮を学ぶ。	障害者支援施設 アガベの里	乳幼児保育実践	保育園・こども園・学童等の現場で、多くの子どもと出会う中で保育士としての実践力を高める。	まつぼっくり子ども教室	家庭支援論	子どもの健やかな育ちを支えるために、家庭支援が必要とされている背景を知り、保育者に求められる基本的姿勢を学ぶ。	芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ	保育実践演習	授業・研修・実習を通して、それらを総合的に捉え、自らの保育者像を研究し、研究論文としてまとめる	しののめYMCAこども園						
科目名	科目概要	連携企業等																									
保育原理	保育の意義や基本、保育の目標と内容・方法、保育の課程と保育の質の向上を学ぶ。	YMCAオーリーブ保育園																									
障害児保育	障害児保育を支える理念を踏まえ、様々な障害のある子どもの特性や心身の発達に応じた援助・配慮を学ぶ。	障害者支援施設 アガベの里																									
乳幼児保育実践	保育園・こども園・学童等の現場で、多くの子どもと出会う中で保育士としての実践力を高める。	まつぼっくり子ども教室																									
家庭支援論	子どもの健やかな育ちを支えるために、家庭支援が必要とされている背景を知り、保育者に求められる基本的姿勢を学ぶ。	芝浦アイランド児童高齢者交流プラザ																									
保育実践演習	授業・研修・実習を通して、それらを総合的に捉え、自らの保育者像を研究し、研究論文としてまとめる	しののめYMCAこども園																									

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係			
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教員研修は、教員の専門分野における指導力の修得・向上のため、また専門分野の実務力を高めるため、関係する施設等と連携して行うものとする。そして本校教員は、学校が定める教員研修を積極的に受講すると共に、本校教員としての自己研鑽に努めなければならない。特に本校の教育活動と連携する東京YMCAチャイルドケア事業部(こども園・保育園・幼稚園・学童・児童館)が主催する研修は、現在の保育現場での課題や求められていることの学びの場として参加が強く望まれる。理論と実践を基にした専門分野を教授するために、現場職員との学びの機会を重視する。			
(2)研修等の実績			
①専攻分野における実務に関する研修等 研修名:「全国YMCAチャイルドケア研修会」(日本YMCA同盟) 期 間:平成31年1月25日～26日 対 象:全国YMCAチャイルドケア事業部に所属する職員、専門学校教員 内 容:保育者を目指す学生の特徴を知り、養成校と現場の連携により人材を育成する方法を共に考える。			
②指導力の修得・向上のための研修等 研修名:「保育士養成研究所第3回研修会」(保育士養成研究所) 期 間:平成31年2月24日 対 象:全国保育士養成校教員 内 容:改定保育士養成課程における乳児保育の展開(授業実践と展開方法)			
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等 研修名:「全国YMCAチャイルドケア研修会」(日本YMCA同盟) 期 間:令和元年10月11日～12日 対 象:全国YMCAチャイルドケア事業部に所属する職員、専門学校教員 内 容:広島YMCAの平和教育にふれ、保育者の平和教育のあり方を学ぶ。			
②指導力の修得・向上のための研修等 研修名:「ダンス指導研修会 I」(JDAC) 期 間:令和元年10月20日 対 象:保・幼・小・中・大等の教員 内 容:ダンスの技術、授業の進め方、生徒とのコミュニケーションの取り方、安全対策、指導者マナー等を学ぶ。			
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係			
(1)学校関係者評価の基本方針 本校の学校関係者評価は、次のように進める。 1. 学校は教育目標と学校運営の方針を明らかにし、それに照らして日々の活動の適切性について自己評価を実施する。 2. 公表された自己評価について、関係業界・卒業生などによる学校関係者評価を実施する。 3. 学校関係者評価を公表するとともに、そこで出た意見を十分に生かしつつ学校改善を行う。			
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応			
ガイドラインの評価項目		学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標		教育理念・目標	
(2)学校運営		教育理念・目標	
(3)教育活動		教育活動	
(4)学修成果		学修成果	
(5)学生支援		学生支援	
(6)教育環境		教育環境	
(7)学生の受入れ募集		学生の受入れ募集	
(8)財務		財務	
(9)法令等の遵守		法令等の遵守	
(10)社会貢献・地域貢献			
(11)国際交流			
※(10)及び(11)については任意記載。			
(3)学校関係者評価結果の活用状況 ・法人内や近隣のこども園、保育園、幼稚園、キャンプ場等との連携をさらに深めていき、それぞれの専門分野だけでなく総合性を持つ人格を形成する教育を行っていくことを目標として掲げた。 ・本校独自の奨学金制度を整備し、学生が学業に専念できる環境の提供を行うことを確認した。			
(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿			
平成30年9月1日現在			
名 前	所 属	任 期	種 別
星住 秀一	東京YMCA山手コミュニティーセンター館長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業等委員
松本 竹弘	東京YMCA東陽町ウエルネスセンター所長	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	企業等委員
伊藤 幾夫	神奈川県立百合丘高等学校教諭	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	地域の有識者
阿部 亨	エイ・プランニング代表	平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	卒業生
渡辺 健人		平成30年4月1日～令和2年3月31日(2年)	PTA
※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等			
(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 ホームページ (令和元年9月12日公表) URL:http://sports.vmsch.jp/			
5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係			

<p>(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針 保育・教育に関わる施設の学校関係者には、以下のお断いをお願いをいながら、学校運営の情報を提供し、より積極的な連携を図るようにする。</p> <p>① 保育・教育活動を行う一員として関わりをお願いする ② 学校構成員(学生、教職員など)との関わりを持ってもらう(授業・行事見学など) ③ 学校自身が気づいていない良い事、欠けている事を発見し、学校改善につなげる視点を持ってもらう ④ 教育活動を通して知り得た個人情報の取扱いには充分留意してもらう</p>																									
<p>(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの項目</th> <th>学校が設定する項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 学校の概要、目標及び計画</td> <td>プロになるための環境</td> </tr> <tr> <td>(2) 各学科等の教育</td> <td>社会体育専門課程</td> </tr> <tr> <td>(3) 教職員</td> <td>教員紹介</td> </tr> <tr> <td>(4) キャリア教育・実践的職業教育</td> <td>実習制度</td> </tr> <tr> <td>(5) 様々な教育活動・教育環境</td> <td>スポーツ・野外活動施設</td> </tr> <tr> <td>(6) 学生の生活支援</td> <td>学費サポートシステム</td> </tr> <tr> <td>(7) 学生納付金・修学支援</td> <td>入学案内</td> </tr> <tr> <td>(8) 学校の財務</td> <td>情報公開</td> </tr> <tr> <td>(9) 学校評価</td> <td>学校評価</td> </tr> <tr> <td>(10) 国際連携の状況</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(11) その他</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。</p>		ガイドラインの項目	学校が設定する項目	(1) 学校の概要、目標及び計画	プロになるための環境	(2) 各学科等の教育	社会体育専門課程	(3) 教職員	教員紹介	(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習制度	(5) 様々な教育活動・教育環境	スポーツ・野外活動施設	(6) 学生の生活支援	学費サポートシステム	(7) 学生納付金・修学支援	入学案内	(8) 学校の財務	情報公開	(9) 学校評価	学校評価	(10) 国際連携の状況		(11) その他	
ガイドラインの項目	学校が設定する項目																								
(1) 学校の概要、目標及び計画	プロになるための環境																								
(2) 各学科等の教育	社会体育専門課程																								
(3) 教職員	教員紹介																								
(4) キャリア教育・実践的職業教育	実習制度																								
(5) 様々な教育活動・教育環境	スポーツ・野外活動施設																								
(6) 学生の生活支援	学費サポートシステム																								
(7) 学生納付金・修学支援	入学案内																								
(8) 学校の財務	情報公開																								
(9) 学校評価	学校評価																								
(10) 国際連携の状況																									
(11) その他																									
<p>(3) 情報提供方法 URL: http://sports.vmsch.jp/</p>																									

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			外国語	基本的な英会話ができるようになり、外国人と情報交換ができることをめざす	1 通	60	2	○			○			○	
○			体育理論	社会福祉の現場に役立つ、健康や体育・スポーツに関する一般的な理論について理解を深めていく	1 後	30	1	○			○		○		
○			体育実技	幼児との関わりに充分対応できる運動技能、体力を身につける。走、跳、投の運動スキルを高める	1 前	30	1		○		○		○		
	○		キリスト教保育	キリスト教保育とは、どのような保育なのか？その疑問をさまざまな角度から解き明かしていく	1 後	30	2	○			○			○	○
	○		コンピューターI	保育者が扱う文書はさまざま、その作成にも多くの時間が費やされる。コンピューターを活用してそれらを効率良く処理していく為の基本を学ぶ	1 前	30	1		○		○			○	
	○		子どもの発育と発達	成長期の発育と発達をふまえ、乳幼児期の子どもの健康づくりや体力向上に必要な、指導者としての知識と運動スキルを身につける	1 前	30	2	○			○			○	
○			社会福祉	社会福祉における制度やしきみについて総合的に理解する。そのうえで、保育士の役割と実際、他職種との連携・協働についても併せて理解する。	1 前	30	2	○			○			○	
○			児童家庭福祉	子どもと家庭が直面する様々な問題を理解し、子ども・保護者等へ適切に関わることを目的とする	1 後	30	2	○			○		○		
○			保育者論	保育者とはどうあるべきか、専門職としての保育者に求められる役割や倫理、制度的な位置づけを理解する	1 後	30	2	○			○		○		○
合計					9	科目	300 単位時間			(15) 単位					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保育原理	保育に関する原理的体系的な知および考え方について、今日の保育の制度、実態について保育の内容・方法についてその概略を理解することを目的とする	1 前	30	2	○			○	○			
○			社会的養護	社会的養護とは何か、基本を学び、保育士のかかわる社会的養護の意義、役割（“関わりの仕事”の深さ、難しさ、尊さ）を理解する	1 前	30	2	○			○		○		
○			保育の心理学Ⅰ	①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得する ②発達心理学と保育の関連について理解する	1 前	30	2	○			○			○	
○			保育の心理学Ⅱ	保育士に必要な心理的知識を修得することを目的とし、乳幼児の心身の発達、コミュニケーション、心理教育的支援法などについて学習していく	1 後	30	2			○	○				○
○			子どもの保健Ⅰ	保育士に必要な小児の健康と保育保健についての知識と技術を学び、発達に応じた手当てや支援ができるようにする	1 通	60	4	○			○				○
○			子どもの食と栄養	栄養の基本知識についての理解を深め、その上で子どもの食事を考え、いまの子どもの食生活の現状と課題について理解を深める。	1 通	60	2			○	○				○
○			保育内容総論	①「保育」の基本について理解する ②乳幼児期の発達過程を学び、園での生活や遊びを理解する ③保育の総合性と理解する	1 前	30	1				○		○		
○			保育内容演習（環境）Ⅰ	幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「環境」が意図しているねらいや内容を学び、子どもを取り巻く様々な環境についての理解を深める	1 後	30	1				○				○
○			保育内容演習（健康）Ⅰ	子どもの心身の健康を保持し、安全を守ることが求められることから、子どもの心身の状態や発育・発達を理解し、保育者の役割や指導援助についても考えていく。	1 前	30	1				○		○		
合計				9 科目		330 単位時間							(17) 単位		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育内容演習(人間関係)Ⅰ	生後2週間目には、もう母親とのコミュニケーションを取り始めることを理解し、動物の進化と対比しながら人とのかかわりを学ぶ	1前	30	1	○			○			○	
○			保育内容演習(表現)Ⅰ	乳幼児期の特性を踏まえ、乳幼児個々の感性と創造力を育む保育を理論・事例を交え、“表現”の理解を深めていく。	1後	30	1	○			○			○	
○			保育内容演習(言葉)Ⅰ	乳幼児のことばの発達過程を考察することにより、保育者として子どものコミュニケーション能力の育みに、どのようにかわるべきかを考える。	1後	30	1	○			○			○	
○			障害児保育Ⅰ	障害への理解を深め、子どもと適切に関われることを目的とする	1前	30	1	○			○			○	○
○			障害児保育Ⅱ	障害児を取り巻く環境、生活状況を把握したうえで、制度やしぐみについて総合的に理解する	1後	30	1	○			○			○	
○			音楽Ⅰ	保育の中で扱う教材において必要な基礎知識と技能を習得する	1通	60	2	○			○			○	
○			図画工作Ⅰ	絵を描いたりものを作ったりする活動を通して、表現活動の楽しみを体験的に理解し造形表現の基礎力を養うことを目的とする	1通	60	2	○			○			○	
○			身体表現	ダルクローズリトミックの手法による身体表現法などを学びながら、より優れた保育者になるための感性、知性、創造性等を伸ばす	1前	30	1	○			○			○	
○			実習指導Ⅰ-1	保育所の機能や役割など理解し、実習Ⅰ-1に向けて個々の課題を明確にする	1後	30	1	○			○			○	
合計				9 科目				330 単位時間			(11) 単位				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			キャンプ 実習Ⅰ	YMCA組織キャンプの理解と体験をとおして、自然・仲間・自己と向き合う機会とする。そこから、創造的、教育的実体験を得ることをねらいとする	1 集 中	45	1			○	○	○			
○			1年次 セミナー	社会人になるための基礎知識の習得と保育者（専門職）を目指す為の一般常識の習得と就職に向けた知識の習得と準備をする	1 通	30	1		○		○	○		○	
○			ボランティア 概論	「ボランティア」とは何か。その本来の意味とその必要性を理解し、社会の一員としてどのような役割を果たすことができるのかを検討する	1 集 中	30	1		○		○	○			
○			保育実習Ⅰ-1 (保育所)	保育所において90時間の実習を行う	1 集 中	90	2			○	○	○		○	
○			保育実習Ⅰ-2 (施設)	児童福祉施設において90時間（宿泊もしくは通勤）の実習を行う	2 集 中	90	2			○	○	○		○	
	○		海外研修	海外の保育施設を訪ね、学ぶと共に、子どもたちと出会い、ふれあい、つながることを目的とする。	1 集 中	45	1			○	○	○		○	
	○		野外スポーツ 実習	海洋スポーツ、テニス、ゴルフ、スノースポーツの中から1種目を選択・履修する。実習前に事前講習会等が行われ、参加することが必須の要件となる	2 集 中	45	1			○	○	○			
合計					7	科目	375 単位時間			(9) 単位					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		心理学	自分や他者の心の理解や心理学の基礎知識を習得することを目的とする	2前	30	2	○			○			○	
	○		子どもの人権と法	子どもの人権保障の観点を基本的な部分から考え、理解を深める	2前	30	2	○			○			○	
	○		コンピューターⅡ	保護者向けの「おたより」や管理資料等の作成を通して、どうしたらわかりやすく良い文書ができるのかを自分で考え、工夫を加える習慣を身につける	2後	30	1		○		○			○	
○			相談援助	① 相談援助の概要について理解する ② 相談援助の方法と技術について理解する ③ 相談援助の具体的展開について事例や実習を通して理解する	2後	30	1		○		○			○	
○			教育原理	教育学の基礎的な理念や知識を習得することをねらいとする	2前	30	2	○			○			○	
○			子どもの保健Ⅱ	実際の小児の健康観察・日常生活支援、けがや事故への手当てを学び、保育士としての知識・技術を身につける	2後	30	1		○		○			○	
○			家庭支援論	子育てを巡る環境や社会的状況を概観し、今、求められる家庭支援のあり方を検討し、家庭支援の意義や体制を理解すること目的とする	2後	30	2	○			○			○	○
○			保育課程論	保育におけるカリキュラムの概念、とらえ方を理論的に学習しながら、保育カリキュラムの編成の意義、内容、方法について理解することを目的とする	2前	30	2	○			○			○	
○			乳児保育Ⅰ	乳児保育の基本的な知識から乳児保育に対する保育士としての考え方や心構えを身につける	2前	30	1		○		○			○	
合計			9 科目		270 単位時間								(14) 単位		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			乳児保育Ⅱ	乳児保育の基本的な知識から乳児保育に対する保育士としての考え方や心構えを身につける	2後	30	1	○			○			○	
○			社会的養護内容	1年次の「社会的養護」を基本学習とし、実践的な学習応用、考察及び認識を深める	2前	30	1	○			○			○	
○			保育相談支援	保育所に通うもしくは地域に在住している子ども保護者への支援の在り方を理解し、実践できるようにする	2後	30	1	○			○			○	
○			実習指導Ⅰ-2	児童福祉施設における90時間の実習のため、施設に対する理解を深めるとともに実習のねらいを明確にし、実習に取り組めるようにする	2前	30	1	○			○			○	
○			保育実践演習	多様な社会を客観的な視点から考察し、保育に関する現代の課題について検討する	2通	60	2	○			○			○	○
	○		地域福祉論	児童自身が主体的に成長発達できる生活環境を整備するために、地域福祉の拠点となる児童館事業、地域子育て支援事業において留意すべき点を学ぶ	2後	30	2	○			○			○	
	○		児童の健全育成と福祉	子どもの豊かな成長・発達にとって「健全育成」「児童福祉」が果たしている役割や意義を確かめ、その制度・施策・施設の基本的な原理やあり方、課題を学ぶ	2前	30	2	○			○			○	
	○		発達心理学	①保育の心理学Ⅰで学んだことを復習しながら、生涯発達を理解する。 ②発達途上で起きる様々な問題を学ぶ。 ③育児をする親の心情の理解する。	2前	30	1	○			○			○	
	○		社会福祉援助技術	子どもを取り巻く環境が複雑多様化している状況下で、子ども・保護者へ適切な支援をする方法を学ぶ	2後	30	1	○			○			○	
合計				9 科目	300 単位時間 (12) 単位										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			臨床心理学	保育者が、子どもが自分の「わたし」を創りあげていく過程の中で、より適切な支援の在り方を考え、実践できるようにする	2 後	30	1	○			○				
○			カウンセリング概論	カウンセリングとは何かを理解し、保育士としてのカウンセリングをどう生かすかを理解する	2 後	30	1	○			○			○	
○			環境保育	自然環境の中でも特に栽培に焦点を当て、机上と実践の双方のアプローチで保育環境のあり方や保育実践を学ぶことをねらいとする	2 前	30	1	○			○			○	
○			子どもの食事と保育	年齢に合わせた食育の取り組みや実際に保育園で行われている食育を調べていく。食育と健康の関係や子どもの生活の中で、健康への取り組みを検討する	2 前	30	1	○			○			○	
○			生活と遊び	子どもの人間関係を基盤として形成される社会性の発育に不可欠なものが「遊び」である。この「遊び」について考察し、保育者としてのかかわり方や援助方法を学ぶ	2 前	30	1	○			○			○	
○			子どもの造形遊び	表現活動を幅広くとらえ、子どもと共に楽しむ保育造形の理解と基礎力を養うことを目的とする	2 前	30	1	○			○			○	
○			子どもと言葉	絵本や劇あそび、素話など、保育現場でどのように生かしていくか演習方式で取り組んでいく	2 後	30	1	○			○			○	
○			発達障害児の教育支援と方法	発達障害児の理解と支援について理解を深め、保育実践に活かせるようにする	2 後	30	1	○			○			○	
○			乳幼児体育	乳幼児に対する運動指導が適切に展開できるように、指導者としての運動の知識や技能、指導方法を身につける	2 後	30	1	○			○			○	
合計				9 科目		270 単位時間 (9) 単位									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		図画工作Ⅱ	伸びやかな表現を育むために、保育造形の理解と造形指導の基礎力を養うことを目的とする	2後	30	1		○		○			○	
	○		音楽Ⅱ	リトミック、音楽理論、リズム、歌など音楽を総合的に学び、保育士として音楽の楽しさを伝えられる指導方法を習得する	2前	30	1		○		○			○	
	○		実習指導Ⅱ・Ⅲ	1年次の実習で身に付けたことや学んだことをさらに深め、個々のテーマ(課題)に沿って施設機能や役割、子どもへの支援の在り方を学ぶ	2前	30	1		○		○			○	
	○		救急法と安全	保育の現場や家庭で起こり得る救急事故に対応する手当ての理論と実践を学ぶと共に、保育者としての事故防止・安全に対する意識を高める	2集中	30	1		○		○			○	
	○		2年次セミナー	就職指導を中心に、履歴書の書き方や面接の仕方、さらに2年次での学生自身の学びの取り組みの確認をしながら進めていく	2通	30	1		○		○			○	
	○		乳幼児保育実践	乳幼児の発達のメカニズムを学び、保育者として求められる知識、技術を実践を通して学ぶ	2前	30	1		○		○			○	○
	○		子どもの文化	子どもに関する現代の諸問題を知るとともに、子どもに関わる文化の歴史と実際を学び、「子どもとは何か」を多角的に理解していく	2後	30	1		○		○			○	
	○		キャンプ実習Ⅱ	自然の中での活動をとおして、キャンプの基礎を学ぶとともに人間性の涵養をはかることを目的とする	2集中	45	1			○		○		○	
	○		キャンプ実習Ⅲ	自然の中での仲間との協働や自然体験をとおして、保育者としての感性や表現力を高めることをねらいとする	2集中	45	1			○		○		○	
合計			9 科目		300 単位時間								(9) 単位		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(保育専門課程保育科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		音楽Ⅲ (ピアノ上級)	歌唱では、正しい音程・発声で幼児に楽しく歌ってあげること。楽典では音楽の基礎知識を修得すること。楽器で正しいリズムを表現できるようにすることを目的とする	2前	30	1		○		○			○	
	○		レクリエーション演習	レクリエーション活動の楽しさを理解し、保育や福祉分野での対象児・者の心身の成長・健康に寄与するレクリエーションプログラムと指導者のあり方を学ぶ	2後	30	1		○		○		○		
	○		児童館の機能と運営	児童館と放課後児童クラブの基本的機能の意味を確認し、福祉施設としてその具体的活動展開と運営上のポイントを学習する	2前	30	2	○			○			○	
	○		子どもキャンプ演習	豊かな自然環境の中で、キャンプを行うことの意義と目的を理解する	2前	30	1		○		○		○		
	○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ-1で身に付けたこと、学んだことをさらに深め、指導計画を立案し、責任実習を行うために保育所において90時間の実習を行う	2集中	90	2			○		○	○		○
	○		保育実習Ⅲ	保育実習Ⅰ-2で身に付けたこと、学んだことをさらに深め、指導計画を立案し、責任実習を行うために児童厚生施設・児童福祉施設において90時間の実習を行う	2集中	90	2			○		○	○		○
	○		保育所実習	保育所での実習経験をより深めるため、保育所において6日間：45時間の実習を行う	2集中	45	1			○		○	○		○
	○		学童保育演習	学童保育の必要性と役割を理解し、子どもにとってどのような学童保育が求められているのか、指導員の仕事・役割、子どもとの関わりを考えることを主題とする	2前	30	1		○		○		○		
	○		体育指導実習	スポーツの指導実習を通して、子どもに運動やスポーツの楽しさを伝え、幅広い指導体験を重ねる。また、保育者としての資質や能力の向上をねらいとする	2集中	45	1			○		○	○		
合計					9	科目		420 単位時間			(12) 単位				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
1,905時間以上	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。